



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造
養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年1月16日) 第27号



八鹿青溪中 HP

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

兵庫県人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」優秀賞！ 養父市立八鹿青溪中学校 2年 白川 遙人 さん

見出しのとおり、このたび本校より出品した作文が、兵庫県人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」の随想部門で優秀賞に輝きました。これはたいへん名誉なことであると同時に、作文の内容が実に素晴らしく、本人および家族の皆様の承諾を得て、この校報「八鹿青溪」で紹介させていただくことにしました。

「優しさで広がる世界」

養父市立八鹿青溪中学校 2年 白川 遙人

僕の母は、左手足に麻痺がある。母が六歳の頃、心臓の手術をし、術後二日目の夜、突然頭が痛くなり、朝起きると左半身が全く動かなくなっていたそうだ。本当に突然の出来事で、かなり衝撃だったと言っていた。それから、小学校一年生の時は親元を離れ、神戸の病院に一人入院し、リハビリをたくさんしたそうだ。今は、ゆっくりと歩けるが、左手はほぼ使うことができない状態である。だから、母は重い荷物を持つ時や瓶のふたを開ける時などに、

「はると、手伝って」

と言う。毎日のことなので全部は書き出せないが、他にもたくさんある。そんな時、僕だけでなく、父や妹も自然に手伝っている。

僕が生まれてからの子育ては大変だったと思う。僕は小さい頃からよく動く子だったので、すぐに走ってどこかへ行くし、危ないこともするし、追いかけるのも捕まえるのも本当に大変だったと言っていた。でも、そんな僕たちを嫌な顔一つせず育ててくれたことにとっても感謝している。

また、母は毎日、家事だけでなく仕事もしている。在宅で、パソコンを使って一般事務の仕事をしている。車も運転する。僕が小学生の時、習い事の送迎はほとんど母がしていた。こんなふうには片手だけで全てをこなしてしまう母を、僕は尊敬している。

僕が母の話の中で一番に残っているのは、母が子どもの頃、スポーツやマラソン大会、運動会などで皆と同じようにすることができず、嫌いだったということだ。マラソン大会では、全員がゴールして座っている中、最後の一周を一人で走らなければならなかったことが悲しかったそうだ。母は、

「でも今は、はるとが楽しそうにするから、はるとのお陰でスポーツも運動会もマラソン大会も好きになった」と言ってくれた。

僕は体を動かすことが好きなので、母の気持ちを本当の意味で理解することはできない。でも、もし誰でもできるのに自分にはできない、ということがあれば、きっと悲しい気持ちになるだろう。だから、そんな母が僕を見てスポーツを好きになれたのは嬉しかった。母の話聞いてからは、いつも他のお母さんたちと応援に来てくれることが、もっと嬉しくなった。

僕は母と接する中で、障がいのある人々の中には、僕が当たり前のようにできることができない人もいて、ということを知った。そして、時には悲しい気持ちや不便な思いをしていることも分かった。だから僕は、障がいのある人たちの気持ちを考えて、寄り添える人になりたい。でも一方で、特別扱いをせず皆と同じように接したいとも思う。なぜなら僕には、母のことを特別扱いしているつもりはないからだ。

僕の友だちも周りの人も、母の障がいのことを、悪く言ったり面白がったりしているのを一度も見たことがないし、必要なときは自然と手助けしてくれる。母も、



「それはすごいことだし、本当に皆に感謝やな」

と言っていた。

社会には、障がいのある人への差別や偏見がまだまだ存在する。そんなことを見聞きするたびに、この世界も僕の友だちのような人でいっぱいになればいいのに、と思う。

母のような人が快く生活できる優しい世界に、少しでも近づいてほしい。そのために僕は、今日も母の買ってきた重たい買い物袋を運ぼうと思う。

そして、障害のあるなしにかかわらず、困っている人がいたら手助けできる自分でいたいと思う。こんな温かくて優しい気持ちが、多くの人に広がるといいな。

(指導者：福岡 麻衣 教諭)

～その他各種表彰～ ※2学期終業式(12月22日)にて表彰伝達

【芸術・文化部門】

第42回 全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会地区(但馬)予選 金賞 1名

第57回 小・中学生作文詩集「但馬の子ども」詩部門 特選 1名

生活作文部門 入選 1名

全国書画展覧会 特選 8名

【部活動部門】

第31回 但馬中学校ソフトテニス選抜招待大会 個人戦 優勝

個人戦 優勝

第77回 但馬中学校駅伝競走大会 第5区 区間第2位

3学期始業式式辞 ※一部抜粋

「新年早々、不幸な出来事が連続して起きてしまいました。まずは、石川県の能登半島で起きた大地震。また、羽田空港で起きた航空機衝突事故。さらには、北九州市で起きた大規模火災。いずれも衝撃的な出来事ですが、その中でも、能登半島地震は今後もさらに被害が広がりそうです。…」(中略)

「おかげさまで、私自身は、平穏なお正月を迎えましたが、元旦の昼過ぎ、懸命になって年賀状の配達をなさっている郵便局員の姿を見ました。また、普段どおりに運行されている八鹿駅行きのバスも見ました。いつもどおり電気が着きます。いつもどおり水も出ます。いつもどおり新聞も届いています。このように、仕事をしている方々のおかげで自分は平穏なお正月を過ごせるのです。今日からは、自分が人の役に立つ仕事をしなくてはいけないと決意を新たにしています。…」(中略)

「さあ、今日から3学期の始まりです。2学期の八鹿青溪中学校は「飛躍の秋」「躍動の秋」でしたが、3学期が令和5年度の締めくりにふさわしい素晴らしい学期になることを期待して3学期始業式の式辞とします。」



1月の「草庵先生の教え」

今月の池田草庵先生の教えは「人は欺くべきも、自らは欺くべからず」であり、「人はあざむくことはできても、自分をあざむくことはできない」という意味になります。つまり、自分のことは自分が一番分かっているはずで、自分を決まてごまかすことはできないということです。言い換えると、自分の気持ちに正直に生きるということが大切だという教えでもあります。八鹿青溪中学校の生徒はこの教えを念頭に生活します。

1月 校訓 貫徹 慎独 創造

人は^{あざむ}欺くべきも、
自らは^{あざむ}欺くべからず

人はあざむくことできても
自分をあざむくことはできない。

